

浄土平の植物、動物、鳥類

浄土平の多様な環境は、豊富な植物、動物、そして鳥類の棲み家となっています。春から秋にかけては野草が湿原と沼の周囲に花を咲かせ、地域固有の常緑樹と広葉樹の原生林が一帯を覆います。夏には多くの渡り鳥がここに集まり、マカクザルやツキノワグマといった在来種の哺乳類がこの辺りの人里離れた森林地帯に生息しています。

浄土平の植物

浄土平の湿原や沼や森林は、亜高山性のコケ、野草、落葉樹、広葉樹、低木の生息地となっています。

この辺りの森林は、ほとんどが亜高山性針葉樹林です。ゴヨウマツ（アズマゴヨウマツ；Pinus parviflora）は、吾妻連峰に原生するシロマツの亜種です。盆栽に広く使用される種です。オオシラビソは、北本州の山々に原生する耐寒性の常緑樹です。浄土平の辺りでは、多くのオオシラビソが西側にむき出しに生育しており、枝は東向きに伸び、西の方角から吹く冬の強風により旗のような形を成しています。

このあたりで最も多い落葉樹林はダケカンバ（*Betula ermanii*）で、その優美な銅色の樹皮と秋に明るい黄色に紅葉するハート形の葉が特徴的です。

雨季（6月中旬から7月下旬）には、雪のようなワタスゲ（*Eriophorum vaginatum*）の草むらと、ピンクのベルの形をしたイワカガミ（*Schizocodon soldanelloides*）の花が湿地帯のあちこちに生育します。この時期には、小さな白い花びらをつけたチングルマ（*Geum pentapetalum*）も咲きます。丸い葉をつける食虫植物のモウセンゴケ（*Drosera rotundifolia* L.）は湿地帯の酸性土壌を好み、7月から8月にかけてそのネバネバした巻きひげで昆虫を捕らえます。トランペットの形をした紫色のエゾリンドウ（*Gentiana triflora* var. *japonica*）などの原生する高山植物は、夏の終わってから秋の初めにかけて花を咲かせます。

ネモトシャクナゲ（*rhododendron brachycarpum* f. *nemotoanum*）は、薄いピンクの花を花冠状に咲かせる、珍しい原生の常緑低木です。7月に訪れた際は、樋沼や兎平の辺りで、普段はなかなか見つからないこの花を見つけることができるかもしれません。ネモトシャクナゲは、1903年に吾妻連峰で発見されたハクサンシャクナゲ（*rhododendron brachycarpum*）の亜種です。

浄土平の動物

浄土平には、ニホンヤマネ、テン、イタチ、オコジョ、野ウサギなど、多くの在来種が棲息しています。大きい動物としては、ホンドギツネ、ニホンカモシカ、ニホンザル、ツキノワグマといった在来種が棲息しています。

浄土平の鳥

夏季には、多くの鳥たちが、浄土平の森林・湿原・沼を生息地とします。これらの鳥は、ここで繁殖し、巣を作り、この辺りの豊富な昆虫、幼虫、種子、そして草花を餌とします。

ホシガラスや、小さなツバメの亜種であるイワツバメは、浄土平でよく見られます。ホシガラスは、この辺りに1年を通して生息する鳥で、チョコレートのような黒茶色に白い斑点の羽毛が特徴的です。夏には、マガモやカルガモといった水鳥が、この辺りの沼や湿地帯に生息しています。コマドリ、ウソ、ルリビタキ、ヨタカといった野鳥の声が聞こえるのは一般的ですが、その姿を目にできることは稀です。